

## 連載企画

自動車リサイクル業界を  
担うホープ(18)

名前:伊澤(いざわ) (25歳)

所属:株式会社吉田商会(愛知県豊橋市)

担当:生産部門(事務・生産アシスタント)

特技:絵を描くこと

MBTI: 討論者型(論理的思考力と柔軟な発想力を持つため、周りに革新的な視点を提供します。また、人との交流を好み、周囲を盛り上げる力があります。)

— 仕事で誰にも負けない部分

受話器を取るスピード

— この業界の魅力を一言で

環境を守りながら、新しい価値を生み出せるところ

— 将来の業界への期待

クルマの終わりを社会の始まりに変えられたらいいと思います

※MBTIとは認識・決定理由・処理方法など16タイプの性格に当てはめるテストで、キャリアの適性判断、チームワークの強化、最近ではアイドルのプロフィールなど様々な分野で利用されています。

## INDEX

【連載企画】自動車リサイクル業界を担うホープ/巻頭言 —— P.1

【最終回】自動車リサイクル業界の転換点を生き残る —— P.2

自動車リサイクル士更新講習会の案内/ワイヤーハーネス共同実証事業の準備状況について —— P.3

JAERA 活動・会議報告 —— P.4

トヨタ自動車からのお知らせ・「MIRAI」廃棄処理について —— P.5

8月新車販売・使用済自動車発生台数/中古車輸出に係る返還台数 —— P.6

鉄スクラップ最新情報 —— P.7

行事予定・お知らせ / 編集後記 —— P.8

## 巻頭言

広報部会

伊地知 志郎

今年も残すところ3ヶ月となりました。

九州では8月に大雨災害が発生し、各地に大きな影響を及ぼしました。昨年は幸い大きな災害はありませんでしたが、2年前の福岡・朝倉、5年前の人吉など近年は毎年のように大雨災害が続いています。

今後台風の影響があるかもしれませんが、こうした状況を踏まえると日頃から備える大切さを改めて感じます。集中豪雨は昔と違い長時間止まず、予測が難しくなっているように思います。

10月には中部北陸と九州ブロックの交流会が名古屋で開催され、会社見学や意見交換の機会が設けられます。災害対応車両や電子ブレーキ搭載車の増加で、解除困難な運搬車にレッカー対応が必要となる場面も増えています。こうした点についても交流会でご意見を伺えればと思います。

これ以上災害が起こらないことを願い、安全と備えを意識して活動してまいりましょう。

02

—連載—

## 自動車リサイクル業界の転換点を生き残る（最終回）

## サーキュラーエコノミーに向けた動向とリサイクル業界の課題

近年、持続可能な社会を目指す「サーキュラーエコノミー（循環型経済）」の概念が広まってきている。環境への負荷を最小限に抑えると同時に、現在のリニアエコノミー（直線型経済）では潜在化していた資源が有する価値を顕在化・最大化させる、というものである。自動車リサイクル業界でも、自動車メーカー等動脈サイドとの連携を深めつつ、部品や素材の再利用を促進し、廃棄物を最小限に抑える取り組みが求められているといえよう。

これまでの日本経済は個別企業等の次元では資源循環の追求がなされつつも、構造的にはリニアエコノミーであった。資源に対して労働力やエネルギーが投入され、素材や部品製造のプロセスを経て製品になるが、その後これらはごみ（焼却、埋め立て）になる。ごみの焼却率が8割という高水準にとどまっていることがその象徴といえよう。この一方通行のモデルから、サーキュラーモデルに移行することが求められている。

自動車産業においても製造された自動車は様々な循環形態が想定される。まずは、カーシェア、メンテナンスといったところから、中古車や中古部品としてリユースのプロセスがある。さらにはリファービッシュやリビルトがあり、それらが再度利用のプロセスに投入される。いったんELVとして回収されたのちには、クローズドループとして自動車製造に再投入されるものもあれば、マテリアルないしはケミカルリサイクル、というルートもある。この循環が機能すれば、資源投入量の削減や廃棄物の極小化につながる。しかしながら、現在の自動車リサイクルは、「モノ」の流れとしては機能しているが、製品のライフサイクル全体で多角的な資源の利用方法があるにもかかわらず、そこに「カネ」の流れが十分に付随していないことから、資源が有する価値を顕在化できていない、という機能不全に陥っている。確かに、従来から、資源の有効利用や廃棄物発生量の削減を意図した3R（リデュース、リユース、リサイクル）が提唱されてきたが、サーキュラーエコノミーは、この循環を実現するための新たなビジネスモデルの構築も視野に入れている。

このような状況下で、自動車リサイクル業界はどのようなビジネスモデルを構築すべきであろうか。

1つは解体作業の効率化である。各企業は当然ながら限られたELVを調達し、部品や素材販売を行うという点では競争関係にある。一方で社会的課題に対応し、かつ業界の持続的な発展を実現するという点では、さまざまな協調も必要となってくる。企業規模や地域性などの個別的要因が様々あろうが、解体の効率化に向けた各社の創意工夫や、各車種の構造に関する情報交換がより活発になされてもよいのではないかな。

2つは高騰する物流コストの削減である。静脈産業では、物流コストが製品価格に占める割合が高くなりがちであるが、物流コストの改善が経営改善に直結するともいえる。特に素材販売の局面においては、各社個別ではなく、共同出荷をより促進することも必要である。この取り組みは素材販売における安定供給にもつながり、本来素材として有する価値が価格として顕在化しやすくなるであろう。

また、この業界を取り巻く動脈サイドや政策的な支援も不可欠である。現在、デンソー社などによる「ブルーリバーズ協議会」が進めている精緻解体機械の導入も、将来的には選択肢に入ってくるかもしれない。人材不足にも対応しうる取り組みといえ、今後の展開が注目される。また、サーキュラーエコノミーには、CO2と異なり、「循環度」を図る統一的な指標が必要であり、これは自動車リサイクル業界のみによっては決めることができない。この指標が確立すれば、各リサイクル企業がどの程度循環に寄与しているか、などの評価にもつながってこよう。

来年には、樹脂とガラスを対象とした「資源回収インセンティブ制度」の開始や、再生資源利用の義務化に向けた資源有効利用促進法の改正も予定されている。資源価格の高騰や海外流出、さらには脱炭素、といった様々な社会課題をクリアするために、サーキュラーエコノミーの重要性はますます高まっていくと想定され、これに対する業界や各社の今後の取り組みに注目していきたい。



北海学園大学  
経済学部教授  
浅妻 裕

## 03

## ▶ 自動車リサイクル士更新講習会 本日から受付開始!

## 自動車リサイクル士資格をお持ちの皆さまへ

資格更新のための「自動車リサイクル士制度認定更新講習会」の申込受付が始まりました。今回の対象は、資格の有効期限が2026年3月の方です。更新講習を受講することで、資格の有効期限がさらに5年間延長されます。対象者の方には9月末にご案内を郵送しておりますが、ご自身の有効期限は[こちら](#)からご確認ください。

本講習会は、移動の負担がないサテライト方式で実施します。ご自宅や事業所のパソコン・タブレットから受講でき、全国どこからでも参加可能です。また、従来の基礎的な内容に加え、本年からは最新のテーマとして「電気自動車の適正処理」に関するプログラムを新たに追加しました。現場で役立つ知識を再確認できる貴重な機会です。



会議の様子

## ■ 受講対象者 2026年3月に資格の有効期限を迎える方

※有効期限が2026年10月、11月、12月の方は今回は受講対象外です。

## ■ 講習会日程

2026年				
2月3日(火)	2月13日(金)	2月18日(水)	2月26日(木)	3月4日(水)

※上記の中からご都合の良い1日を選んでご受講ください。  
※時間は10:00～16:00頃を予定(途中休憩あり)。

## ■ 申込締切日 2026年11月30日(日) 必着

受講後は修了確認を経て、新しい認定証書を郵送いたします。定員には限りがありますので、早めのお申込みをおすすめします。詳細や申込方法は、[こちら](#)をご確認ください。

引き続き業界の信頼を支えるプロフェッショナルとして、ぜひ受講をお願いいたします!

## 04

▶ JAERA 会員限定  
ワイヤーハーネス共同出荷事業の準備状況について

## 「Car to Carリサイクル」の実現を目標として

2月号でお知らせした「ワイヤーハーネス共同出荷事業」につきまして、JAERAでは、現在、事業開始に向けた準備を進めております。本事業は、JAERA会員限定で、ワイヤーハーネスの効率的な回収・集約を実現することで、資源の有効活用と国内循環を推進する取り組みです。事業者の規模に関わらず、適正な価格での取引を目指し、回収された銅を再び自動車部品として活用する「Car to Carリサイクル」の実現を目標としています。

現在は、事業開始に向けた体制づくりや運用方法の検討を進めており、関係者との調整も進行中です。詳細については、決定次第ニュースレター等でお知らせしますので、引き続きご注目ください。

## 本取り組みの魅力

銅資源の国内循環

適正価格での取引

被膜の除去が不要

水平リサイクルの実現

※2月号は[こちら](#)

## 05 ▶ JAERA 活動報告

### 第60合同審議会に石井代表が出席

9月5日（金）、経済産業省と環境省が連携して開催する「産業構造審議会 イノベーション・環境分科会 資源循環経済小委員会 自動車リサイクルWG」と「中央環境審議会循環型社会部会 自動車リサイクル専門委員会」の合同会議（以下、合同審議会）が開かれ、石井代表が出席しました。

この合同審議会には、産業界、自治体、学識経験者など多様な委員が参加し、自動車リサイクル制度の改善や評価・高度化、国際動向への対応、再生資源の活用促進などについて議論・検討が行われています。JAERAは、自動車解体業界の代表として参加しています。

今後は、10月14日に第61回、10月21日に第62回の開催が予定されています。特に第62回では、JAERAから解体業界の課題や要望、検討事項を直接お伝えする時間が設けられています。自動車解体業界、ひいては自動車リサイクル全体に関する現状の課題を発信してまいりますので、引き続きご注目ください。

※第60回の内容については、[こちら](#)をご参照ください。

## 06 ▶ JAERA 会議報告

### 第2回ブロック長会議—9月10日（水）東京都港区（WEB併催）—

会議では、まず本部より第60回自動車リサイクル合同審議会の詳細報告があり、解体業界としての課題や懸念事項について意見交換を行った。その後、今後の合同審議会などで業界団体として発信すべき内容の検討が進められた。特に、使用済自動車の著しい減少という現状を踏まえ、どのような意見や施策を打ち出すかについて議論が行われた。

続いて、各種調査への協力依頼や共同出荷事業の進捗報告があり、価格高騰による在庫車両減少への対応について議論が行われ、各ブロックの現状を踏まえた意見交換や今後の活動に向けた情報共有が図られた。

なお、今回の会議で集約された業界の最新状況やデータ、ならびに議論内容は、今後各ブロック単位での会議を通じて各支部長に伝達され、さらに各都道府県のJAERA会員へと周知される予定である。

今後各ブロック単位での会議を通じて各支部長に伝達され、さらに各都道府県のJAERA会員へと周知される予定である。



会議の様子

### 沖縄ブロック会議—9月12日（金）沖縄県沖縄市—

会議では、資源回収インセンティブ制度に関する説明会が開催された。JAERAが作成した「制度の手引き」に基づき、制度の仕組みや基本的な考え方、導入の背景について詳細な説明が行われ、参加者は、制度の目的や建付けを確認するとともに、実際に現場で必要となる作業や準備事項について理解を深めた。今回の説明会を通じて、制度に対する理解が深まるとともに、今後の方向性を検討するに必要な土台が築かれたといえる。



会議の様子

### 関東ブロック会議—9月17日（水）東京都港区—

今回は、インセンティブ制度の説明の後、本部報告が行われた。続いて、ワイヤーハーネスの共同出荷事業について進捗報告や課題など意見交換が行われた。移民系企業の著しい増加について、JAERAが調査した最新データを基に情報交換が行われ、特に、千葉県や北関東における移民系企業の割合が顕著であり、仕入状況の悪化にさらに拍車をかけているとの情報が寄せられ、今後の合同審議会でJAERAとして発信する内容についても議論が及んだ。

### 九州ブロック会議—9月20日（土）福岡県福岡市—

会議では、資源回収インセンティブ制度が議題となり、制度参画に向けた課題や検討事項について活発な意見交換が行われた。また、10月18日（土）に愛知県名古屋市で開催予定の「中部北陸・九州ブロック合同会議」に向けた調整も行われた。本会議では、中部北陸ブロックの現状共有や見学会等が予定されており、九州からも多数の出席者が集まる見込みである。地域間の情報共有と連携強化に向けた重要な機会となることが期待される。

07

## トヨタ自動車からのお知らせ 燃料電池自動車「MIRAI」廃棄処理にあたってのお願い

### 燃料電池自動車である「MIRAI」の廃車処理

平素より当社製品の適正処理・再資源化にご協力いただき、誠にありがとうございます。

燃料電池自動車である「MIRAI」の廃車処理につきましては、一般の車両と異なり、高圧ガス保安法に基づいて、水素タンクからのガス抜き作業やくず化作業が義務化されています。ガス抜き作業は、専用のガス抜きツールを用いた作業（約3～5時間）が必要となり、作業を外部委託する場合、費用が掛かります（当社では有償で技術サポートを実施しています）。ガス抜き後、くず化したタンクの処分には、処理方法や発生地域等により費用がかかる場合もあります。MIRAIを引き取る際は上記にご留意ください。安全かつ確実な処理のため、下記の点にもご注意いただきますようお願い申し上げます。

### マニュアルの確認

作業の前には必ず「FCEV（燃料電池自動車）適正処理/回収・リサイクルマニュアル」をご確認いただき、内容に沿って実施してください。適正な処理をせずに解体作業を行うと、破裂、爆発、火災、感電、電解液漏出などの事故が発生し、重大な傷害や、最悪の場合には死亡に至るおそれがあります。解体作業を行う前にマニュアルを熟読し、正しい作業を行ってください。

こちらから▶

<https://global.toyota.jp/sustainability/esg/challenge2050/challenge5/proper-disposal/>



### 法令遵守

「自動車リサイクル法」「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」「労働安全衛生法」だけでなく、「高圧ガス保安法」等の関連法規の遵守が必要となりますので、適正な手順での作業を実施してください。

### 水素ガス抜き作業の実施

燃料電池システムが停止していても水素タンクには水素が残っているため、必ずマニュアルに沿って専用のガス抜きツールを使用して、高圧ガス保安法等で定められたガス抜き作業を実施してください。

### 部品取り外しの方法

車体からFCスタック、水素タンク、駆動用電池を取り外す際は、解体重機を使用しないでください。また、これらの取り外しを行う前に、プレス作業を行わないでください。



<ガス抜きツールの購入及び技術サポートに関する問い合わせ先>

豊通リサイクル株式会社 0565-46-9520

(ご参考) ガス抜きツール価格：約35万円（'25年9月時点）

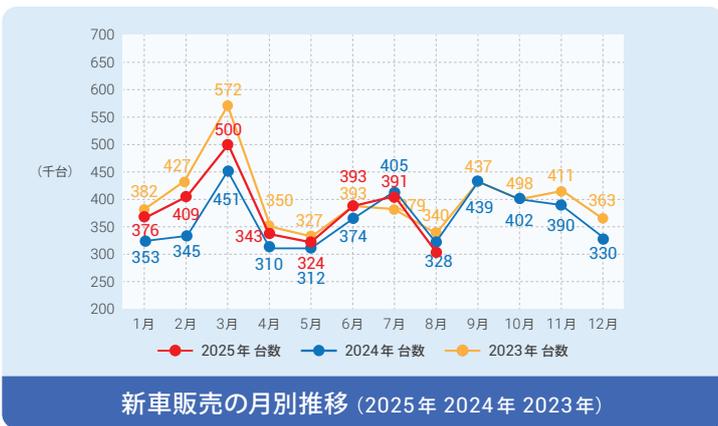
08

8月新車販売・使用済自動車発生台数・中古車輸出に係る返還台数

2025年8月の台数動向

— 新車販売、使用済車・輸出返還ともに前年割れ

■2025年8月度 新車販売台数 301,219台 (前年同月比91.7%)

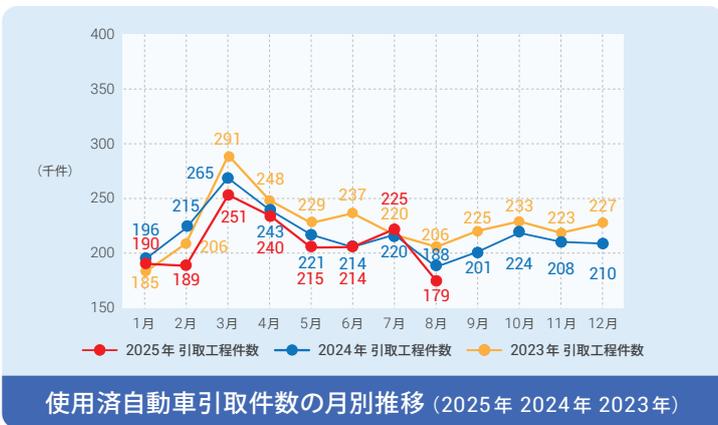


年累計	台数(台)	前年比(%)
2025年(8月まで)	3,037,192	106.2
2024年	4,421,494	92.5
2023年	4,779,086	113.8
2022年	4,201,320	94.4
2021年	4,448,340	96.7

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

■使用済自動車引取 (電子マニフェスト) 実施状況

2025年8月度 引取工程 179,349件 (前年同月比95.6%)



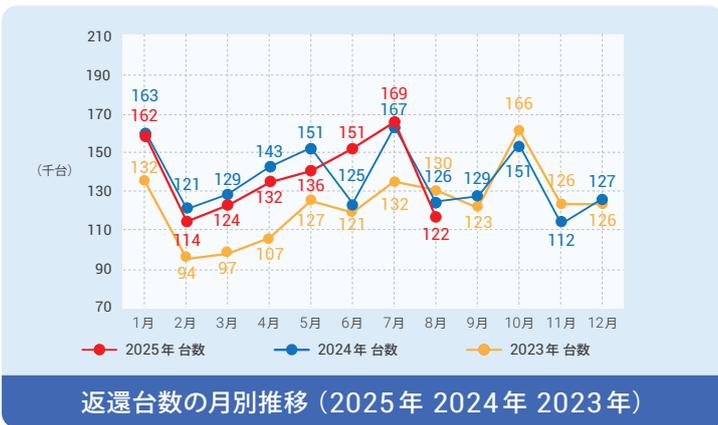
年累計	件数(件)	前年比(%)
2025年(8月まで)	1,701,697	96.5
2024年	2,607,112	95.5
2023年	2,731,329	98.6
2022年	2,769,122	87.5
2021年	3,165,022	100.8

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

■中古車輸出に係る返還台数※

2025年8月度 122千台 (前年同月比96.8%)

※中古車の輸出に伴い、預託していたリサイクル料金を返還した台数



年累計	台数(千台)	前年比(%)
2025年(8月まで)	1,113	98.9
2024年	1,644	111.0
2023年	1,481	115.7
2022年	1,281	95.5
2021年	1,342	107.2

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

## 09

## 鉄スクラップ最新情報

[ 提供：日刊市況通信社 ]

## 9月第4週（26日）の鉄スクラップ動向



## 9月26日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	39,000 ~ 41,500	様子見
	南関東	39,000 ~ 41,500	様子見
	浜値	39,500 ~ 40,500	様子見
名古屋		39,000 ~ 40,500	様子見
関西	大阪	39,500 ~ 40,500	様子見
	姫路	39,000 ~ 40,500	一部値上げ

## 夏季減産終え値上げ対応も

夏季減産期を終え、国内電炉鋼生産が回復する状況となっている。このため鉄スクラップ需要量が増加しているが、市中スクラップの発生・荷動きが低調なため、需要家筋の間に引き合いを強める動きが出始めている。

東日本では、北海道電炉が9月に入り2度の値上げ改定を実施。道内相場は合計1,000円どころ上伸した。また、関東市場では、一部で実勢買値の引き上げが見られるほか、一部電炉が購入価格を2,000円値上げ。関東相場に基調変化の兆しが見られる。

西日本の鉄スクラップ市況は堅調様子見で9月末へ向かっている。東京製鉄岡山工場では値上げ改定後も他の拠点との格差が残るが、域内需要のバラつきをはじめ、内外格差も以前に比べて縮小しているため、市況の上伸力が高いとは言い難い環境にあるようだ。ただ、東京製鉄の西日本拠点の値上げに対して炉休の残る大阪や姫路では需要が揃って上向いた環境ではない。輸出商談もフレート高に圧迫され、実質的にはFOB基準で内外格差が縮小しているため、「段階的に上昇するような材料は見当たりにくい」(商社)と一時的な値戻しとの見方が多い。

## 関東 需要家の多くが静観も底堅い推移

関東鉄スクラップ相場は、23日(火)の祝日を挟み底堅く推移している。東京製鉄をはじめとするメーカー勢や、東京製鉄東京湾岸サテライトヤードを含む湾岸シッパー勢の多くが建値を動かさずに静観を続けているものの、南関東を中心に一部電炉ではメイン品種のH2を中心に浜値を上回るスポット対応が出ている。関東地区のH2炉前実勢価格は39,000～41,000円中心、高値41,500円見当。H2浜値は39,500～40,500円中心。

## 東海 東西で上伸も需要家筋は様子見姿勢

東海市場の鉄スクラップ市況は様子見横ばいの推移を続けている。東日本や西日本市場で値上げする動きが広がっているものの、東海市場の需要家筋は現時点では慎重な購入姿勢を維持したままだ。東京製鉄の値上げ対応は西日本に限られていること、関東や関西の需要家筋の値動きが現時点で一部にとどまっていることなどから、東海市場への影響は今のところ限定的となっている。H2炉前実勢価格は39,000～40,500円中心。

## 大阪 需給ひっ迫感欠き様子見姿勢を維持

大阪地区の鉄スクラップ市況は様子見商状にある。外部環境が一時期に比べて好転へ向かっているが、一部の荷止め対応により祝日後も需給がひっ迫感を欠いた状況に変わりはなく、市況は反発力の乏しい展開が続いている。東京製鉄岡山工場のここまでの2度の値上げに対して、電炉側はほとんど反応を見せておらず、様子見対応を維持している。今後については荷動き次第の状況だ。H2炉前実勢価格は、39,500～40,500円中心。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、9月26日午後時点のもの)

10

お知らせ

## 自動車リサイクル促進センター主催 自動車リサイクル会議 開催

自動車リサイクルの最前線を知る絶好の機会です！

昨年に引き続き、自動車リサイクル促進センター（JARC）主催の自動車リサイクル会議が11月4日（火）に開催されます。

今年のテーマは「循環型社会への道～プラスチック・ガラスリサイクルの現状と課題～」。廃車由来資源の高度循環に向けた国内外の最新動向や、自動車リサイクル分野における最前線の取組事例を一挙に紹介いたします。

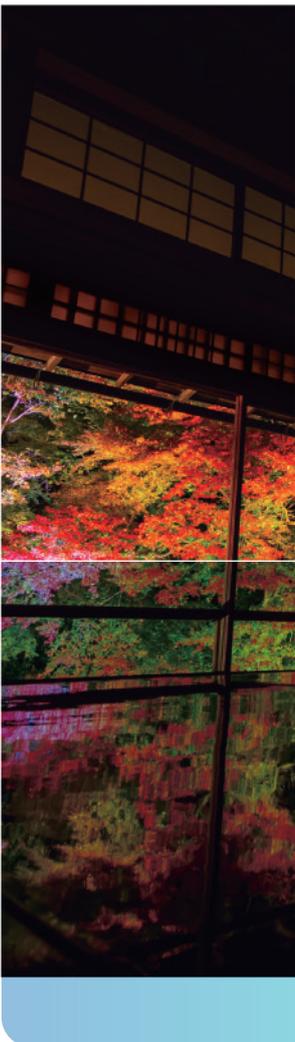
自動車のリサイクルに携わる皆様にとって、今後の取り組みに役立つ情報が満載です。会場参加は、定員がありますので、ぜひお早めにお申し込みください！



昨年の会場の様子

詳細は[こちら](#)（JARC ホームページ内）

## 編集後記



学校行事は、いつも妻に任せきりでした。

会社の仕事を理由に、入学式も授業参観も満足に行けず、毎日が残業みたいなもので、夜はわが子の寝顔を見て暮らしていたものでした。三人の子どもたちには、ひもじい思いだけはさせたくないと、妻と二人、無我夢中で働いてきました。そのせいか、何を食べさせ、何を着せて育てたのかも、覚えていない始末です。

ある年、小学校の運動会と出張会議の日程が重なった時、妻から雷が落ちました。「会議とか言って、結局はお酒飲みが楽しみで行くんでしょ。子どもとどっちが大事なの？」返す言葉もありませんでした。

そんなある時、学校の先生に言われたのです。「学校で一番大事な行事は、入学式でも運動会でも授業参観でもありません。卒業式です」と。それを聞いて、せめて子ども三人の卒業式だけは全部出席しようと心に決めました。でも、それすら叶わなかったダメ親父です。

今、その子どもたちはそれぞれ子育てに奮闘しています。せめて、私のようなダメ親にならないことを願うばかりです。

広報部会長 田村 幸男

## 10 月の主な行事予定

※急遽、日程変更・延期の場合がございます。

- 3日（金）4日（土） | 東北ブロック交流会（対面）
- 9日（木） | J-FAR（資源回収インセンティブ）定例会（WEB）
- 14日（火） | 第61回産構審・中環審合同審議会（WEB）
- 15日（水） | 常任役員会（WEB）
- 18日（土）19日（日） | 中部北陸・九州ブロック合同会議（対面）
- 21日（火） | 第62回産構審・中環審合同審議会（WEB）
- 23日（木） | J-FAR（異常電池適正処理）定例会（WEB）
- 28日（火） | 第1回産官学コンソーシアム（対面）

編集・発行責任者

一般社団法人日本自動車リサイクル機構  
広報部会長 田村 幸男

お問い合わせ先

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 〒105-0003 東京都港区西新橋1丁目11-3 虎ノ門アサヒビル3階  
TEL:03-3519-5181 FAX:03-3597-5171 MAIL:jaera-homepage@elv.or.jp HP:https://www.elv.or.jp

